

2011年1月号
Vol. 11

発行者／財団法人千葉県文化振興財団 理事長 佐久間 豊
〒260-8661 千葉市中央区市場町11番2号 TEL 043-222-0077 FAX 043-221-6438
E-Mail info@cbs.or.jp ホームページ <http://www.cbs.or.jp/>

毎年6月に開催している「若い芽のαコンサート」は、千葉県にゆかりのある将来有望な若手演奏家を県民の皆さまに紹介するとともに、プロのオーケストラとの共演を提供することを目的に、昭和62年から開催している演奏会です。

今年25回目の記念演奏会を迎えますが、このコンサートに出演された演奏家の方々は、日本国内はもとより、アメリカやヨーロッパなど世界各地でも活躍されています。

その中から、昨年、特にご活躍されたお二人にお話を伺ってまいりました。



——日本音楽コンクール第1位おめでとうございます。発表の瞬間のご感想をお聞かせください。

本番前、いろいろなことを考えすぎてしまい、リハーサルに集中できないまま本番を迎えてしまったので、正直、良い演奏ができたかどうかはわからなかったんです。結果も「たぶんダメだろうな」と思いながら友達と見に行きました。先に聴衆賞、続いて本選の結果が発表され、自分の名前が書いてあることが、とても不思議で、状況がよくわかりませんでしたが、日に日に喜びが増し、この賞の重みを実感しています。



第23回の演奏会に出演され、昨年、日本音楽コンクールのフルート部門で第1位、あわせて聴衆賞も受賞された竹山愛（たけやま・あい）さん。東京藝術大学大学院。

——若い芽のαコンサートにご出演された後、ご自身の中で変化はありましたか？

私の中ですごくたくさんの変化がありました。

プロのオーケストラとの共演が初めてだったのですが、ソロ奏者としてオーケストラとアンサンブルをしなければならぬことに対して、すごく真剣に向き合うことができ、学ぶことができました。

私自身、習志野高校の吹奏楽部出身なので、千葉県文化会館の大ホールは憧れの場所だったんです。その憧れの場所でソリストとして出演できるなんて夢にも思っていませんでしたし、生まれ育った千葉県で、このような大きなコンサートに出演できたことが、何よりもうれしかったです。

——これからの演奏活動についてお聞かせください。

日本国内のオーケストラに入って活動したいです。海外のコンクールにもチャレンジしたいと思っています。今後の出演予定は、3/8(火)に日本音楽コンクールの受賞者演奏会(東京オペラシティ)に出演します。



第21回の演奏会に出演され、昨年、ドイツのワイマールで開かれた第6回シュポア国際ヴァイオリンコンクールで特別賞を受賞された大塚百合菜（おおつか・ゆりな）さん。桐朋学園大学3年。

——特別賞受賞おめでとうございます。発表の瞬間のご感想をお聞かせください。

表彰は、全員が客席に座っていて、3位から順に名前が呼ばれました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、最後に発表された特別賞で名前を呼ばれて、とてもびっくりしました。あとから、この賞はめったに出ない賞だと聞いて、とてもうれしく思いました。

——若い芽のαコンサートにご出演された後、ご自身の中に変化はありましたか？

若い芽のαコンサートに出演させていただいたときは、高校3年生でした。はじめてオーケストラと共演したのがこのコンサートで、コンチェルトを全部演奏したこともはじめてでした。体力的にも精神的にもどのように整えていけばいいかなど、学ぶことがとても多く、自分の中でとても自信になりました。

私と同年代の演奏家の中には、プロのオーケストラと共演したことのある人が少ないと思うので、これからの演奏活動につながる、とても良い経験をさせていただきました。

——これからの演奏活動についてお聞かせください。

まだ、大学3年生なので日々勉強ですが、先々は日本国内のオーケストラで活動していきたいと思っています。

今後の出演予定は、3/4(金)に千葉市生涯学習センターで開催されるコンサートに出演するほか、チャンネルの2011年アーティスト(2011 PYGMALION DAYS ARTISTS)にも選ばれたので、3月から数回、銀座・チャンネルのネクサスホールでコンサートを行います。

竹山 愛さん、大塚 百合菜さん、お忙しいところありがとうございました。
この他にもたくさんお話を聞いておりますので、詳しくは財団ホームページをご覧ください。

◆◆◆ 千葉県文化振興財団の取り組み ◆◆◆

コンサート鑑賞前にちょっと一息 ～癒しの空間づくり～

千葉県文化会館

ホール前広場のプランターやロビーの観葉植物に「心が和みます」とお客様から嬉しいお声を頂くことがあります。

プランターの植物は職員が一つ一つ手植えをしています。また、ロビーの観葉植物は市内の福祉作業所の方々が丹精を込めて作ってくださっているものです。植物から放出されるフィトンチッドという物質は、心身のリフレッシュ効果だけでなく脱臭・抗菌も認められているそうです。

葉から放出される水分は、空気の乾燥を防ぐ効果もあるとか。開演前のひとときを過ごす場所を少しでも快適にするために、これからもいろいろな工夫をしていきたいと思えます。

千葉県文化会館 電話 043-222-0201



城西国際大学との連携 ～能舞台 映像記録プロジェクト～

青葉の森公園芸術文化ホール

昨年、新たに地域の大学とのネットワークを活かした取り組みがスタートしました。課外活動が盛んな「城西国際大学」のメディア学部と連携し、県民参加公演や伝統芸能公演など学内では決して学ぶことのできない「生きた教材」を題材に、メイキング映像を交えた文化芸術プロモーションビデオの制作に取り組みました。

舞台となったのは、全国的にも珍しい組立式の白木総檜造りの本格的な能舞台を有する青葉の森公園芸術文化ホールです。

その中で、スポットを当てたのは、一般の方があまり目にするのができない「能舞台の建て込み」と、その能舞台を使って行われた「青少年狂言体験教室」で、参加した学生たちは、次第に組みあがっていく能舞台に驚きながらも、能舞台に上がる子どもたちの一挙一動を逃さないよう、熱心にレンズを向けていました。

まだスタートしたばかりのこの取り組みですが、感性豊かな学生が文化振興活動に触れる機会を設けることで、次世代のちば文化の担い手を育成するとともに、相互に持つノウハウを持ち寄り、地域の文化力の向上を図りたいと思えます。

青葉の森公園芸術文化ホール 電話 043-266-3511



幼稚園でコンサートホールの感動を ～幼児芸術鑑賞教室～

千葉県東総文化会館

ヴァイオリンやフルートなどを演奏する黒いスーツの男性。そしてドレスを着た女性は、ソプラノの澄んだ美声が観客を魅了する。…ここまで聞いて、大半の方はクラシックコンサートの情景を思い浮かべると思いますが、このコンサートを聴いているのはなんと幼稚園児なのです。

財団には、「小さな子どもから鑑賞できるコンサートを開催して欲しい」というご要望がたくさん寄せられます。そこで、平成11年度から県内の幼稚園を訪問し、普段年齢制限などで入場できないお子様が、音楽の素晴らしさを体験できる「幼児芸術鑑賞教室」を開催し、これまでに、120の幼稚園で14,000人の園児たちに、楽しんでいただきました。

昨年は6園・650人の園児たちと、ソプラノ独唱やアンサンブル演奏の鑑賞、歌と一緒に歌ったり、ペットボトルなど身近にあるものを利用した手作り楽器を用いての合奏など「初めての体験」をたくさんしていただきました。

ひょっとしたら、このコンサートを観たことがきっかけで、未来のアーティストが誕生するかもしれませんね。

千葉県東総文化会館 電話 0479-64-2001



財団のさまざまな取り組み…舞台芸術鑑賞支援プログラム

財団では、児童福祉施設の皆さまや文化芸術に興味のある小・中・高校生を、企業メセナを活用しながら文化芸術事業にご招待する「舞台芸術鑑賞支援プログラム」を実施しています。

この取り組みは、平成14年度からスタートし、これまでに約2,500名の皆さんに舞台公演を鑑賞していただきました。

公演後、皆さんから寄せられるお手紙や、会場内で配布しているアンケートにご感想をいただいておりますが、どれも心温まる内容で、職員一同、皆さんからたくさんのエネルギーをもらったような気持ちになり、この活動をやっている本当に良かった、ずっと続けていきたいと思っております。

今後も、この活動を通して、地域の活性化に貢献するとともに、より多くの方に「ちば文化の良さ」を味わっていただきたいと思えます。

編集後記

あけましておめでとうございます。

新年号の財団 News、いかがでしたでしょうか。昨年は、県民の皆さまとともに「文化振興ビジョン」を策定し、その実現に向けた、さまざまな事業を展開いたしました。

今回は年明けにふさわしい新進演奏家の活躍にはじまり、財団の取り組みをご紹介させていただきました。

15周年を迎える千葉県少年少女オーケストラの定期演奏会のチケットも公演3ヶ月前に完売するなど、幸先のよいスタートができております。また、完売後のお問い合わせが、とても多く、皆さんの関心の高さを実感いたしました。

定番となりましたプレミアム・シートも発売しておりますので、ぜひご利用ください。

本年も千葉県文化振興財団をどうぞよろしく願っています。